



5万分の1地質図幅の新刊

# 都 城

## MIYAKONOJŌ

5万分の1地質図幅  
地域地質研究報告

著 者 木野義人・太田良平

発 行 工業技術院地質調査所(1977・2)

取 扱 先 地学文献センター(0423)62-5050

・鹿児島と宮崎とのほぼ中間に位置し 既刊の地質図幅「野尻」「国分」「日向青島」などに囲まれた地域である。都城市街地を擁する都城盆地と南那珂山地の一部を含み 山地は主として四万十累層群によって構成され 盆地はシラス・火山灰などの火山噴出物と河川氾濫堆積物に覆われている。

・四万十累層群は主に砂岩と頁岩の組合せから成り 無数の褶曲や断層によって乱されている。盆地内のシラスは厚く最大100mを超える。その上に降り積った火山灰層も厚く5m余に達することがある。始良カルデラ東縁斜面を一気に駆け下ったであろう軽石流の氾濫。霧島火山群の各所に立ち昇る火柱や 暗天を覆う降灰と降り注ぐ焼石の雨。広漠たるシラス台地に立つと 恐らく2万5千年前頃から数千

年前までの期間に盛んであったであろう往時の火山活動の激しさが 彷彿として蘇える。一角に聳える高千穂の峰は何事もなかったかのように静かに秀麗な姿を見せ この地の象徴と仰がれる。

・シラスや火山灰に覆われたこの地は 特殊土壌地帯として生産性や災害の面で問題視されてきたが 一方において それらが広大な平坦面をもたらしたのであり また水源涵養地帯——いはば天然の地下ダム——を形成しているという事実を見逃すことはできない。若しそれらが堆積しなかったとすれば 平坦地は狭く また河川の水量はこれほど豊かではなかったであろう。それらは山地に残された暖帯照葉樹天然林とともに この地域の自然条件評価に際して欠くことのできない要因である。さらに長期的な視野に立てば この地域から大隅半島一帯にわたる 気候・風土に恵まれた広大な土地は 水と大気と太陽エネルギーによる再生産可能な資源の潜在地帯として また健康的な居住地帯として 立地上重要な地位を占めることになろう。

地質ニュース	第273号	5月号
	定価 ¥ 420	〒 50
昭和52年5月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部	
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	